



富岡製糸場総合研究センターだより

No. 10

(2021年12月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

なぜ「旧富岡製糸場」なのか

富岡製糸場の正門の右脇には、「旧富岡製糸場」と刻まれた看板が掛けられています。富岡製糸場という文字の前に「旧」という文字が付けられているのを疑問に思った方もいるでしょう。なぜ、「旧」なのか。では今は富岡製糸場ではないのか。疑問が生まれます。

文化財保護法では、文化財としての価値を評価された機能や用途に対し、歴史の変遷の中で別の使い方をしてきた物件などについては、「旧」や「跡」などの文字をつけた指定名称とすることが通例となっています。絹産業遺産群である「^{たかやましゃあと}高山社跡」についても^{しか}然りです。富岡製糸場は、2005(平成17)年7月に史跡、2006(平成18)年7月に重要文化財に指定されましたが、その時点では製糸工場として操業を停止していたため「旧富岡製糸場」が指定名称となっています。

また、1872(明治5)年に「富岡製糸場」という名称にて操業開始しましたが、操業してきた115年間という歴史の中で、名称としても様々な変遷があります。

このような理由により、看板には「旧富岡製糸場」とありますが、現在も、未来もずっと永遠に富岡製糸場であることに変わりはありません。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

